

あけましておめでとうございます。

日頃より図書フロアをご利用いただきありがとうございます。本年もより良いサービスの充実を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

大事な人と会う。故郷へ帰る。今まで当たり前でできたことが当たり前でなくなり、人と人とのつながりの大切さに気付かされた2020年でした。新しい年が私たちの生活に安心をもたらし、人々の結びつきが広がる年になりますよう、新年にふさわしい本をご紹介します。



めでたさ・はなやかさのあるモチーフを集めたデザイン集。

『縁起のよいデザイン』
●フレア、グラフィック社編集部 編
●グラフィック社 ●2017年



市川家に代々伝わっている「にらみ」。これを見ると一年間風邪をひかないとか。

『市川團十郎代々』
●服部 幸雄 著
●講談社 ●2002年



お気に入りの御朱印帳を片手に、神社・仏閣を巡ってみては？

『御朱印帳カタログ』
●にほん巡礼倶楽部 著
●メイツ出版 ●2016年

LIBRARY INFORMATION ライブラリー・インフォメーション

特別整理期間(蔵書点検)のお知らせ
1/16(土) 1/17(日) 1/18(月)

16日・17日は、2・3階の図書フロアを部分休館します。
18日は、文化財事務室を除き全館休館です。

蔵書点検とは？

書架に並んでいるすべての本のICタグやバーコードを読み取り、あるべき場所に本があるかどうか、行方不明になっている本はないかを確認する作業のことです。



16日・17日の本の返却は、1階エントランスの返却ボックスおよび国会通り側のブックポストをご利用いただけますが、本の返却処理が遅くなることをあらかじめご了承ください。

期間中はご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

1月の展示情報 ※展示情報は変更する場合がございます。

2F パープルゾーン 「三島由紀夫 没後五十年」(～3/12)

2F パープルゾーン 三角台 「スタッフおすすめ『これが好き!』」(～1/15)
好評開催中! 図書フロアスタッフ一同より、皆さまにお勧めしたい本を集めました。

2F エレベーターホール 「これからの書店・図書館・出版社・取次」(～2/28)

3F フルーゾーン 「私的表現」(～2/12)
作家や美術家の手紙・日記・セルフポートレートといった作品を「私的な表現」として注目し展示しています。

3F グリーンゾーン 「解き明かされる不思議～未知から人知へ～」(～1/15)

展示 PICK UP 2Fパープルゾーン【江戸・東京】の本を集めたゾーン

「三島由紀夫 没後五十年」(～3/12(金))

三島由紀夫が市ヶ谷駐屯地で最期を迎えてから五十年が経ちました。今なお彼の作品は読み継がれています。彼をかたち作った文学や芸能、人間関係、彼が生み出した文学作品や手掛けた映画・舞台、そして三島の最期、当時の社会情勢が読み取れる資料、三島論、三島の影響を受けた作家やその作品を紹介します。



『假面の告白』
●三島由紀夫 著
●河出書房新社
●1949年



『仮面の告白』
●三島由紀夫 著
●新潮文庫
●1989年

※館内のみのご利用となります。閲覧希望の方は2階図書フロアカウンターでご請求ください。

From Chiyoda Public Library 【千代田区立図書館からのお知らせ】

千代田図書館企画展示

やっぱり千代田は本の街

ちよだの出版社33

出版産業を地域産業にもつ千代田区。千代田区内に数多くある出版社のうち、独自路線を打ち出す33社の特徴をパネルで紹介するほか、各社自慢の本を100冊以上展示・貸し出します。

- 会期: 12月28日(月)～2021年3月27日(土)
- 休館日: 2021年1月1日(金・祝)～3日(日)、23日(土)～25日(月)、2月28日(日)
- 場所: 千代田図書館9階 展示ウォール

詳しくはホームページでご確認ください。

▶▶▶館内では常時マスクの着用をお願いいたします。入館の際は、手指消毒・検温・入館票をご記入ください。



千代田区立日比谷図書館 広報誌



↑泉鏡花『日本橋』千章館、1914年

日本橋

大正3年9月、小村雪岱は文豪・泉鏡花による書き下ろし小説単行本『日本橋』で、装幀家としてデビューします。鏡花の小説世界を愛した若き無名の日本画家は、その画号「雪岱」も鏡花によって授けられました。以後、装幀家としてばかりでなく、挿絵画家としても後に「雪岱調」と言われる独自の画風で雑誌や新聞などの印刷複製物で活躍します。さらには舞台装置家としての面も見せ、装幀、挿絵、舞台装置と三つの分野で才能をいかんなく発揮しました。本展では日本画家という出自を持ちながら、装幀家、挿絵画家という職能で輝きを放つ雪岱の仕事に注目、特に挿絵画家としての仕事については、監修者・真田幸治氏の膨大な個人コレクションから当時の雑誌や新聞を用いてふんだんに紹介します。印刷物を通して複製芸術家としての雪岱の世界をご堪能ください。



↑邦枝完二「お伝情史」第12回、『現代』、1936年



↑吉川英治「官員小僧」第2回、『日の出』、1938年

「複製芸術家 小村雪岱」

◆日時: 2021年2月13日(土) 14:00～15:30
※1月5日(火)より受付開始。詳しくは、中面をご覧ください。▶▶

予告 / 特別展

複製芸術家 小村雪岱

KOMURA SETTAI

装幀と挿絵に見る二つの精華

2021年1月22(金)～3月23(火)

※休館日 2月15日(月)、3月15日(月)

◎開室時間: 月曜～木曜10:00～19:00、金曜10:00～20:00、土曜10:00～19:00、日・祝10:00～17:00 ※入室は閉室の30分前まで ◎会場: 千代田区立日比谷図書館文化館1階特別展示室 ◎観覧料: 一般300円、大学・高校生200円、千代田区民・中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方および付き添いの方1名は無料 ※住所が確認できるもの、学生証、障害者手帳などをお持ちください。◎主催: 千代田区立日比谷図書館 ◎監修: 真田 幸治(装幀家、小村雪岱研究者)

calendar 開館時間: 平日10時～22時 ■土曜10時～19時 ■日祝10時～17時 ■休館日

2021年1月							2021年2月							
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
					1	2		1	2	3	4	5	6	
3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	
10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	
17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	
24	31	25	26	27	28	29	30	28						

●お問合せ先: 千代田区立日比谷図書館 千100-0012 千代田区日比谷公園1-4
TEL: 施設代表 03-3502-3340 図書総合カウンター 03-3502-3343
URL: https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/

information

部分(図書フロア)休館のお知らせ
2021年1月16日(土)、17日(日)

図書の特別整理(蔵書点検)を実施するため、2・3階の図書フロア部分を臨時休館します。期間中は2・3階への立ち入りが出来ないため、図書の貸出・閲覧席の利用などができなくなります。本の返却は1階のエントランスおよび国会通り側ブックポストをご利用ください(一部資料を除く)。図書フロア以外の施設は通常通りにご利用いただけます。※2021年1月18日(月)は全館、休館日です。(文化財事務室は除く)

access [都営地下鉄] ●三田線「内幸町駅」A7出口 徒歩3分 [東京メトロ] ●丸の内線 ●日比谷線「霞ヶ関駅」B2出口徒歩3分 ●千代田線「霞ヶ関駅」C4出口徒歩3分 ●JR「新橋駅」徒歩10分 ※当施設に駐車場・駐輪場はございません。公共交通機関をご利用下さい。

1・2月の講座

〈参加申込〉電話 (03-3502-3340) またはホームページにて、講座名、お名前 (よみがな)、お電話番号をご連絡ください。各講座ともに定員になり次第、締め切らせて頂きます。キャンセルの場合はご連絡ください。参加費は当日支払いです。
千代田区民料金のある講座は、当日、図書貸出券や健康保険証など住所が確認できるものをお持ちください。

「日比谷カレッジ」とは、日比谷図書文化館が主催・共催で行うセミナーやイベントです。「江戸・東京」「本」「スキルアップ」「芸術」「センスアップ」の5つのカテゴリーに基づき、さまざまな「学び」と「交流」の場を提供します。

1/14 日記のたのしみ

講師：内沼 晋太郎 (日記屋月日 店主)

日記を書きたい、と思ったことはあるでしょうか。続けられずに挫折した経験を持っている方も、きっと多いはず。一方、本の世界では最近になって、誰かの日記をまとめた本が多く出版され、よく読まれるようになってきました。日記を書くこと、読むことの楽しみについて、お話しします。



- 日時：1月14日(木) 19:00～20:30 (18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円

1/22 これからの書店 図書館 出版社 取次 図書館をめぐる諸問題

講師：三田 誠広 (作家・日本文藝家協会副理事長)

図書館は国民の文化的水準の維持には欠かせないもので、同時に生きることの喜びをもたらす大事な場所でもあります。しかしながらベストセラー作品の複本がずらりと並んでいると、出版社や作者の権利を侵害しているとも感じられます。図書館の本来の在り方や未来像について、作家の立場から語っていききたいと思います。



- 日時：1月22日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円

1/26 (火)

これからの書店 図書館 出版社 取次 出版社と書店と図書館と、本を愛する人たちの明日

講師：小野寺 優 (株式会社河出書房新社 代表取締役社長)

「出版不況」は留まるところを知らず、出版物の売上高も書店の数も減少し続けています。その一方で、このコロナ禍に町の書店には多くの人が訪れ、本を求めました。本と読者の出会い方、届け方に大きな変化が生まれつつある中、出版社の立場から「出版」というビジネスのこれからを探りつつ、出版社、書店、図書館一本と読者をつなぐ私たちがすべきこと、そして本を愛する私たちの未来について、皆さんとともに考えます。



- 日時：1月26日(火) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円

1/27 (水)

江戸歴史講座 第71回 芭蕉のことは遊び～しゃれを用いた句

講師：深沢 眞二 (連歌俳諧研究者・文学博士)

日本古典文学を読む上で、「掛け言葉」「秀句」「しゃれ」などと呼ばれる、同音異義語を利用して詩歌が多重の意味を含むようにする技法の理解は重要である。見過ごされがちだが、芭蕉もそれをよく用いていた。芭蕉発句から「水とりや氷の僧の沓の音」ほかを取り上げ、新たな読み解きを試みる。



- 日時：1月27日(水) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円(千代田区民 500円)

1/30 (土)

千代田区民講座 オリピックと野球 ～チームマネジメント～

講師：杉浦 正則 (アトランタオリンピック銀メダリスト)

オリンピックで日の丸を背負うことを目標とし、プロ球団入りの話を拒み続け、社会人野球や日本代表のエースとして活躍し、「Mr.アマチュア野球」と呼ばれる杉浦正則さんに、野球競技におけるオリンピックの歴史、出場した3大会での経験談、そして東京オリンピックについて、チームスポーツやチームマネジメントとして大切なものについてお話しいただきます。(主催：神田雑学大学、共催：日比谷図書文化館)



- 日時：1月30日(土) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：無料

2/17 (水)

～星のソムリエが語る～ もうひとつの地球を探して

講師：皆川 敏春 (星のソムリエ®みたか) / 北崎 直子 (星のソムリエ®みたか)

満天の星空を眺めていると、もしかしたら地球と似た惑星があると思っただけではありませんか？ 続々発見される太陽系外惑星の中には、地球とよく似た惑星も見つかっています。近い将来、人間が移り住めるような惑星も見られるのかもしれませんが。今回はそうした「地球探し」の旅に出てみましょう。



撮影：皆川 敏春氏

- 日時：2月17日(水) 19:00～21:00(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名 ■ 参加費：1000円

2/26 (金)

これからの書店 図書館 出版社 取次 日本の本屋を考える 明治の座売りからインターネット書店へ

講師：柴野 京子 (上智大学文学部新聞学専攻准教授)

日本において本屋とはどのような特徴をもち、私たちにとっていかなる場所であったのでしょうか。明治初期の座売り書店から近代の書店、さらには戦後の書店のスタイルや配置の変化、インターネット書店やセレクトショップなどがどのような道筋の上にあるのかなど、図版をまじえながら、一緒に考えてみたいと思います。



- 日時：2月26日(金) 19:00～20:30(18:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円 ※申込開始：1月12日(火)～

2/28 (日)

古書で紐解く近現代史セミナー第37回 大連の成立 — 満洲経営の中心地はどう造られたのか

講師：長谷川 怜 (皇學館大学文学部国史学科助教)

日露戦争の結果、日本は中国東北部(満洲)で勢力範囲を拡大しました。遼東半島の先端部に位置する大連は日本の大陸進出の拠点として満鉄による都市建設が行われ、有数の近代都市が成立します。大連の歴史を、都市計画、建築、鉄道、観光などのキーワードから読み解き、また戦前と現在の連続性についても解説します。



大連ヤマトホテル (『南満洲鉄道株式会社第二次十年史』 / 南満洲鉄道株式会社 編 / 1928年)

- 日時：2月28日(日) 14:00～15:30(13:30開場)
- 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- 定員：60名
- 参加費：1000円(千代田区民・学生500円) ※学生の方は、当日、受付で学生証をご提示ください。

特別展 関連講座

2021年 1月5日(火)より 受付開始

複製芸術家 小村雪岱

◆ 講師：真田 幸治 (装幀家、小村雪岱研究者)

多彩な雪岱の活動の中でも特に装幀と挿絵の仕事に注目する本展のテーマに合わせて、長年にわたり当時の雑誌や新聞を収集し続け、膨大なコレクションをもつ本展監修者の真田幸治氏が、複製芸術家としての雪岱の魅力について語ります。



長田秀雄 「三升蛇姪録」 『講談雑誌』 1935年

- ◆ 日時：2月13日(土) 14:00～15:30 (13:30開場)
- ◆ 会場：地下1階 日比谷コンベンションホール(大ホール)
- ◆ 定員：60名 ◆ 参加費：500円

<予告> 特別研究室 ● 企画展示

鉄道と街

～明治・大正期の南満洲鉄道と台湾の鉄道を中心に～

特別研究室所蔵の内田嘉吉文庫には産業発展のために鉄道が果たした役割を示す資料が豊富に残されています。今回の企画展示では蔵書の中から南満洲鉄道と台湾の鉄道等の資料を展示するとともに、鉄道により新たに形成されていった街の都市圏・景観などをパネルで紹介いたします。



奉天駅前の汽車 (『南満洲鉄道株式会社第二次十年史』 / 南満洲鉄道株式会社編 / 1928年)

主な展示図書

『南満洲鉄道株式会社十年史』(1919年)、『台湾鉄道史』(1910～11年) 『朝鮮鉄道線路案内』(1911年) ほか

- 期間：2021年1月19日(火)～3月31日(水)
- 場所：4階 特別研究室 ● 入場無料

新年あけまして おめでとうございます。

毎年1階ロビーではお正月飾りでご来館の皆さまをお迎えしています(～1月11日まで)日本には様々な正月行事の習慣がありますが、その中の1つ、鏡餅は平安時代から飾られていたと考えられ「源氏物語」では正月行事として「菌固めの祝い」で鏡餅を供されたことと記されています。鏡餅の丸い形は人の魂(心臓)を模したものといわれ、昔の鏡が丸かったことから「鏡餅」と呼ばれるようになりました。また、大小2つ重ね合わせるのは月(陰)と日(陽)を表し、縁起がいいと考えられたとも伝えられています。館内で飾られている鏡餅は本物ではありませんが、2021年が皆さまにとってウッシシな年(丑年)となりますように。本年も日比谷図書文化館をどうぞよろしく願いたします。